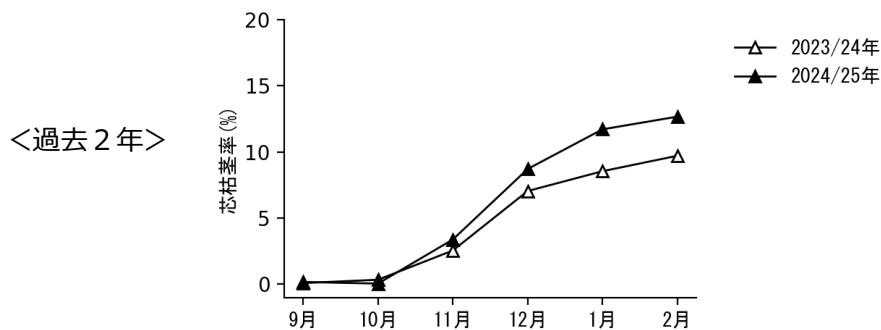
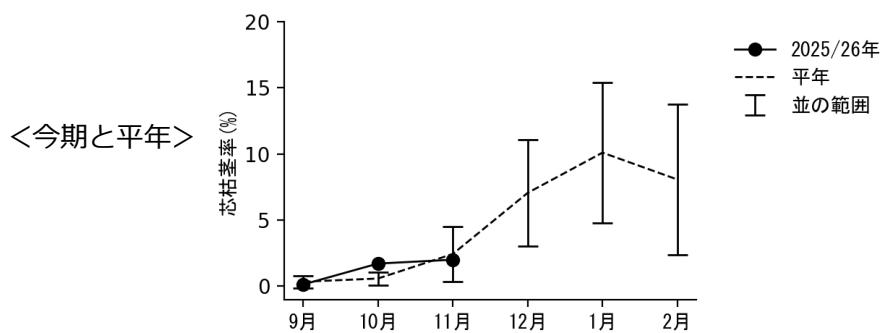


作物	さとうきび		地域	八重山群島
病害虫名	(1) メイチュウ類 (カンシャシンクイハマキ・イネヨトウ)			
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	並		
予 報	11 月からの増減傾向	↗		
	12 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (ノ)		

調査結果

芯枯茎率の推移(夏植え)



- ・発生種：カンシャシンクイハマキ (50%)、イネヨトウ (50%)
- ・発生ほ場率75.0% (平年：69.6%)

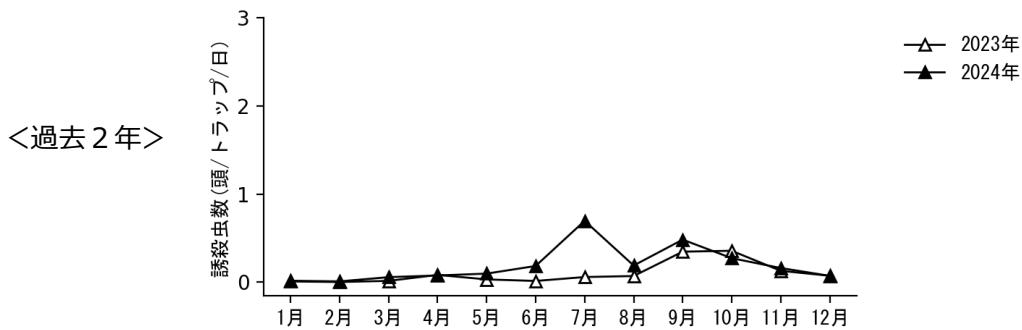
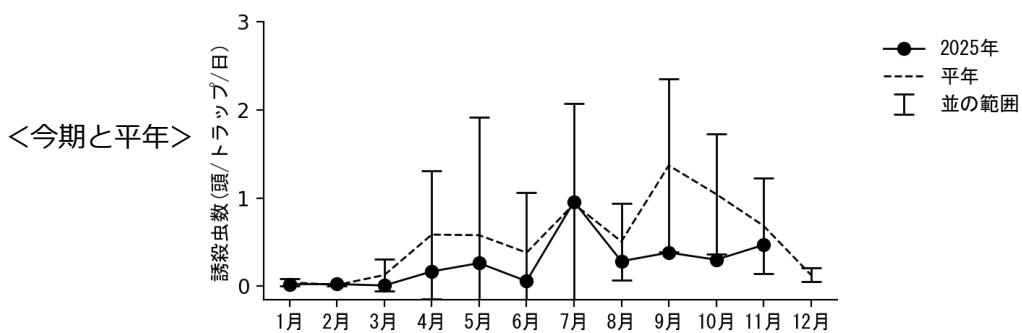
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・植え付け時及び培土時に土壤害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- ・茎葉への乳剤等の散布は、葉鞘と茎のすき間に十分な薬液が入るように丁寧に行う。

作物	マンゴー		地域	八重山群島		
病害虫名	チャノキイロアザミウマ					
調査結果	11 月の発生量（平年比）	並				
予 報	11 月からの増減傾向	↓				
12 月の発生量（平年比）	並					
予報の根拠	平年の発生量の推移 (↓)					

調査結果

トラップ当たり誘殺虫数の推移



- ・発生施設率100% (平年 : 92.0%)

防除のポイント

- ・不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

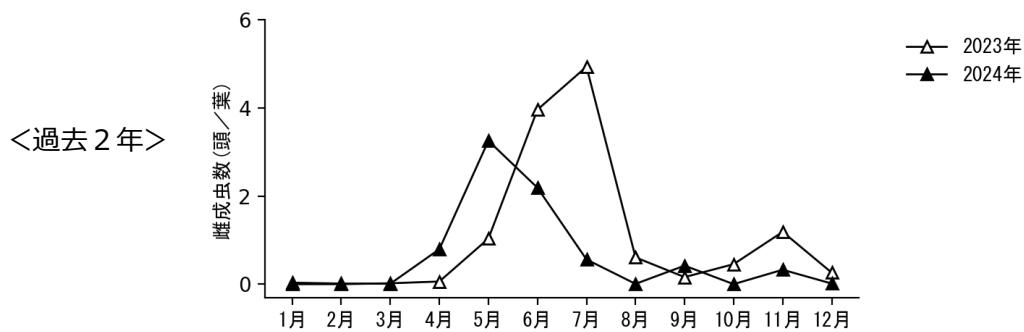
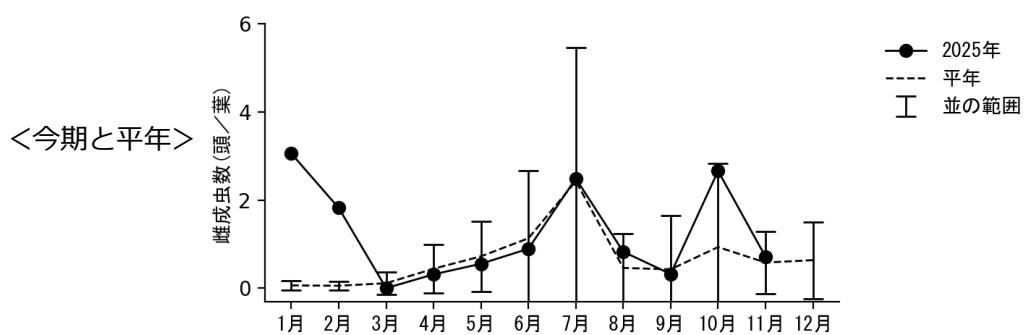


ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー		地域	八重山群島
病害虫名	(1) ハダニ類			
調査結果	11月の発生量（平年比）	並		
予報	11月からの増減傾向	→		
	12月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果

雌成虫数の推移



- ・発生種：マンゴーツメハダニ、シュレイツメハダニ
- ・発生施設率60.0% (平年：38.0%)

防除のポイント

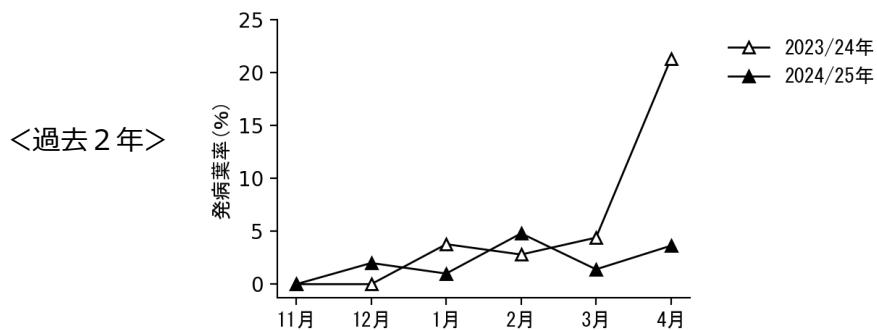
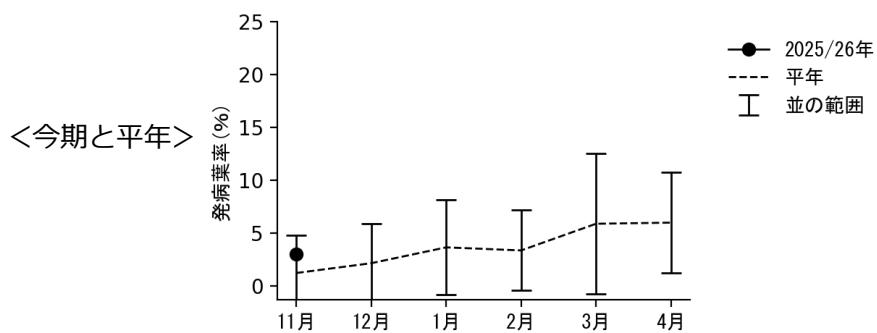
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・冬季はマシン油乳剤による防除が効果的である。本薬剤は天敵に影響が少なく、天敵を保護しながらの防除が期待できる。



作物	ニガウリ(施設)	地域	八重山群島
病害虫名	(1) 斑点病		
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	並	
予報	11 月からの増減傾向	↗	
	12 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

発病葉率の推移



- ・発生施設率25.0% (平年: 17.1%)
- ・一部ほ場で多発が見られた

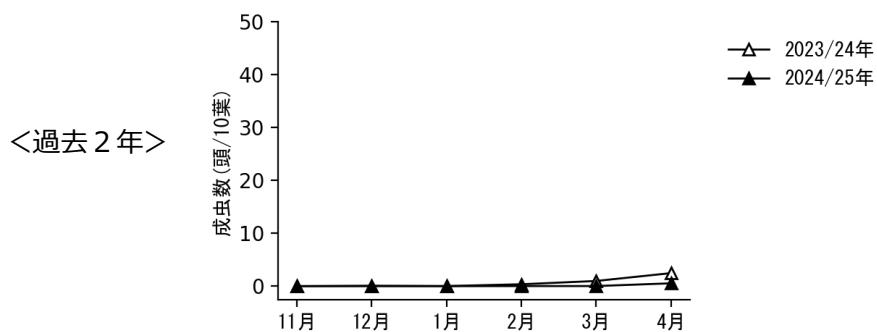
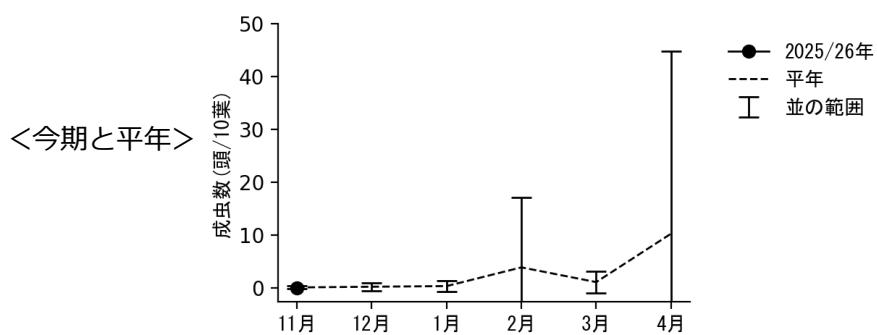
防除のポイント

- ・葉には周囲が黄色で中央が灰色の円形病斑を形成し、果実では表面にすす状のカビを生じる。
- ・多湿条件で発生が助長されるため、湿度管理に注意する。
- ・過繁茂を避け、透光通風をよくする。
- ・老葉や発病葉は伝染源になるので、施設外に持ち出し処分する。
- ・雨漏りする場所での発生が多くなるため、ビニールの破れ等は補修する。

作物	ニガウリ(施設)		地域	八重山群島
病害虫名	(2) タバココナジラミ			
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	並		
予報	11 月からの増減傾向	→		
	12 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果

成虫数の推移



- ・発生施設率25.0% (平年: 14.6%)

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。

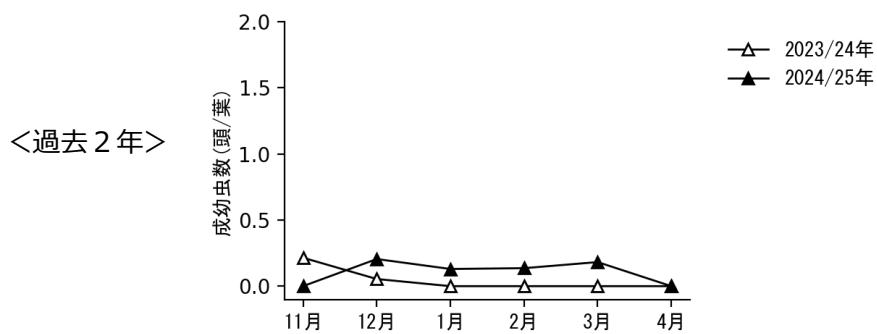
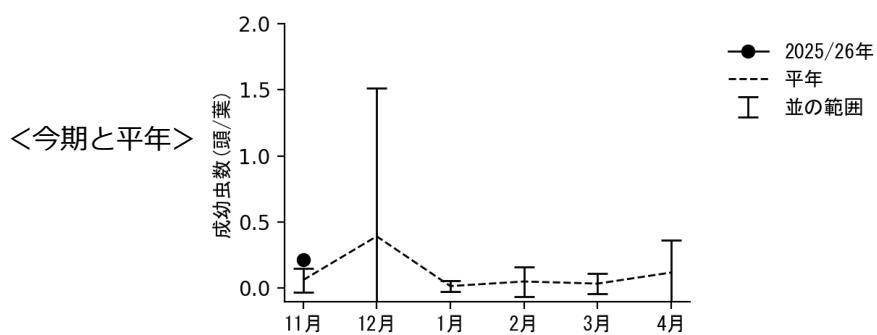


幼虫

作物	ニガウリ(施設)	地域	八重山群島
病害虫名	(3) アブラムシ類		
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	並	
予報	11 月からの増減傾向	↗	
	12 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

成幼虫数の推移



- ・発生種：ワタアブラムシ
- ・発生施設率25.0%（平年：17.1%）
- ・一部ほ場で多発が見られた

防除のポイント

- ・アブラムシ類はズッキーニ黄斑モザイクウイルスやパパイヤ輪点ウイルス等を媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、有翅虫の侵入を防ぐ。
- ・早期発見に努め、薬剤は葉裏にかかるよう丁寧に散布する。